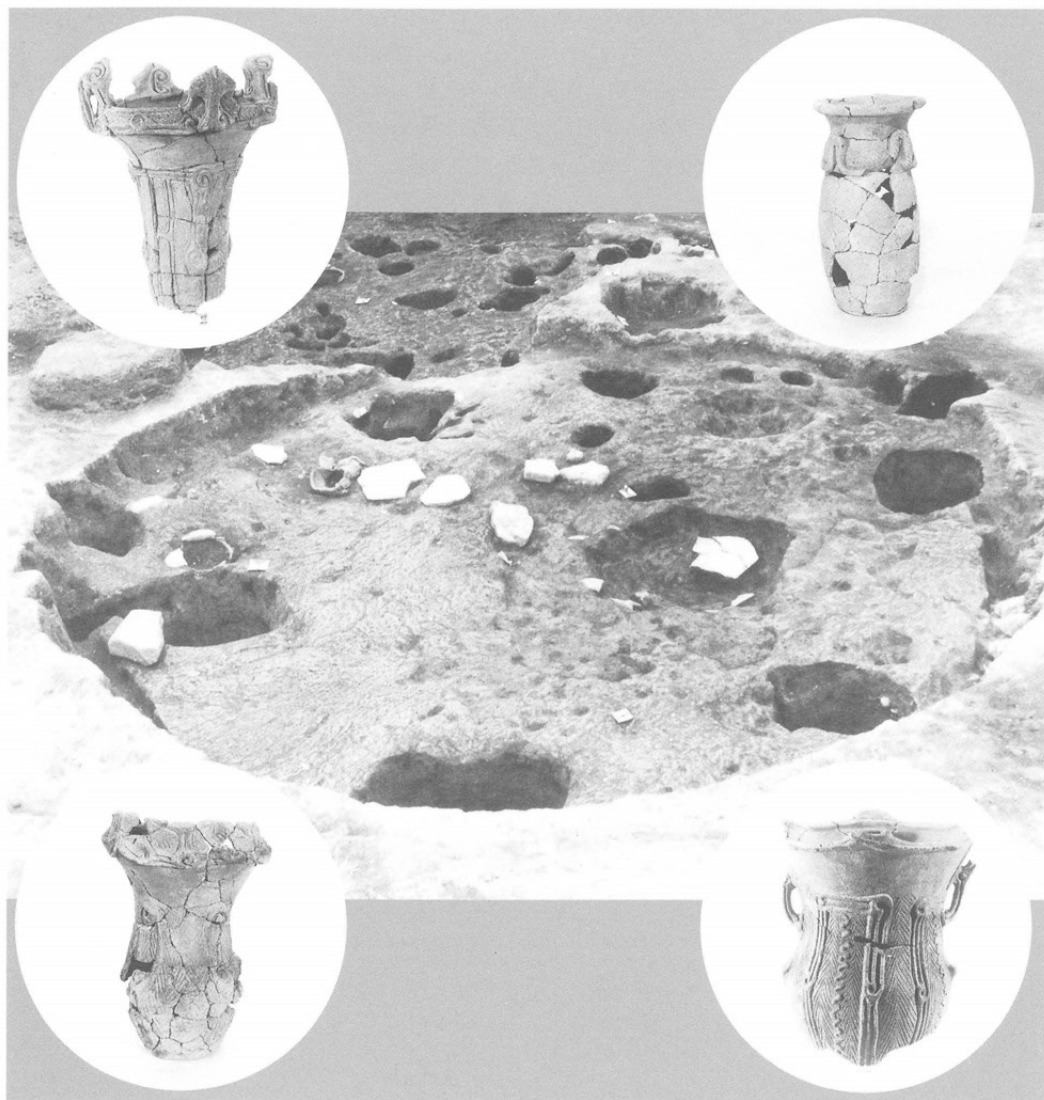


志平遺跡発掘調査報告書

(概報)

平成 13 年度 榎垣外遺跡ほか岡谷市内遺跡発掘調査報告書



長野県岡谷市教育委員会

序

岡谷市は諏訪湖盆地の北西部にあつて、鉢伏山、高ボツチを背景に、横河川、塚間川が扇状地を形成しながら諏訪湖に注ぎます。諏訪湖西側は湖辺まで山塊が迫り、諏訪湖の出口である釜口水門から天竜川が流れ出ています。このような自然環境の岡谷市には 200 個所近くの遺跡があり、縄文時代をはじめ、弥生、古墳、奈良、平安時代など各時代にわたって多くの遺跡が存在することが知られております。

こうした歴史的な環境にあつて、土地開発に伴う埋蔵文化財の調査は、毎年、多くの調査件数にのぼり、これまでに貴重な成果を記録に残し、あるいは出土品の保存に努めてまいりました。

さて、本年度の調査件数は 20 件近くに上り、多くの成果を得ることができました。ここに、平成 13 年度に実施した個人住宅等小規模開発に伴う試掘・確認発掘調査の概要をまとめ、「平成 13 年度榎垣外遺跡ほか岡谷市内遺跡発掘調査報告書(概報)」を刊行しました。埋蔵文化財の保護は土地所有者、事業者等の皆様のご理解とご協力により行われており、発掘調査で得られた成果を公開・活用することにより、これまで以上のご理解とご協力が得られるものと考え、今後この報告書が多くの皆様に活用されることを願っております。

最後になりましたが、今年度の調査にあたり、深いご理解とご協力を頂きました土地所有者と事業者の皆様へ感謝申し上げますとともに、炎暑、厳寒の中、発掘調査に携わっていただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

平成 14 年 3 月

岡谷市教育委員会

教育長 北澤 和 男

1. 平成 13 年度試掘・確認発掘調査の概要

本年度、岡谷市内の周知の遺跡内において、農地転用、公共事業などの開発行為が計画・実施され、市教育委員会が対応を行った件数は 17 件に上る。試掘調査は 15 件 8 遺跡に及び、発掘調査に発展したものは志平遺跡の 1 件がある。また梨久保遺跡において詳細分布調査を行い、遺跡の集落としての広がり調査を行った。以下これらについて概要を記す。

本年度の試掘調査は長地地区に集中し、農地転用に伴う開発行為が多い。しかし年間を通しての開発は減少した。開発の目的は個人住宅・駐車場敷地としての利用が多く、対象地での遺構の有無の確認をするため試掘調査を行ったが、住居跡などの発見はなかった。

公共事業においては市道東中央通り線拡幅工事に伴う試掘調査を行い、調査地南側斜面に近い地点からは盛土を剥がした地表下 2m 以上の深さから、多くの縄文式土器片が出土することが確認された。

橋原地区志平遺跡の調査では、平成 5 年度、12 年度に発掘調査が行われた場所に隣接する地点であるため、多くの遺構、遺物が発見されることが予想された。調査の結果、縄文時代中期中葉住居跡 3 棟、中期後葉住居跡 4 棟、小堅穴 10 基が発見され、多数の縄文式土器や石器が出土した。

なお、緊急発掘調査については以下本文中にその概要を記したが、緊急発掘調査に至らなかった箇所については下記の表によって詳細は省略した。

調査期間	遺跡名	所在地	調査の原因	主な遺構	遺構・遺物の時代
1 4.2~4.4	上屋敷	長地5493-1	駐車場敷地		
2 4.10	上屋敷	長地上屋敷5565-4	駐車場敷地		縄文
3 4.10~5.17	志平	川岸東二丁目9921-1外	住宅建設	縄住7 小堅穴10	縄文
4 5.9、10	権現堂	長地字寺下4874-3	住宅建設		
5 5.9~5.18	榎垣外(中町)	長地字宮下1709-2	住宅建設		
6 5.16~5.22	榎垣外(榎海戸)	長地4005-4	駐車場敷地	小堅穴1	縄文・平安
7 7.16~7.19	岡谷丸山	中央町一丁目10-22	市道拡幅		縄文・平安
8 8.7	上屋敷	長地上屋敷5520-1外	駐車場 ・共同住宅		
9 8.15	東町田中	長地田中街道下485-17	住宅地敷地		縄文
10 11.8、9	榎垣外 (小田野汐上)	長地源一丁目3102-1	駐車場敷地		
11 12.12	東町田中	長地柴宮三丁目1533	住宅地敷地		
12 2.25~	神坐	堀ノ内一丁目9116-1	駐車場敷地		
13	岡谷丸山	中央町一丁目9-26	住宅建設		
14	榎垣外	長地梨久保二丁目4331-2外	貸住宅敷地		
15	榎垣外(辻皂)	長地梨久保一丁目4102外	資材置場		
16	梨久保	長地梨久保二丁目4456-6	墓地敷地		
17	梨久保	長地4468外	詳細分布調査		

第 1 表 平成 13 年度試掘・確認発掘調査一覧表



第1図 試掘・確認発掘調査地点（番号は第1表の一覧表に同じ）

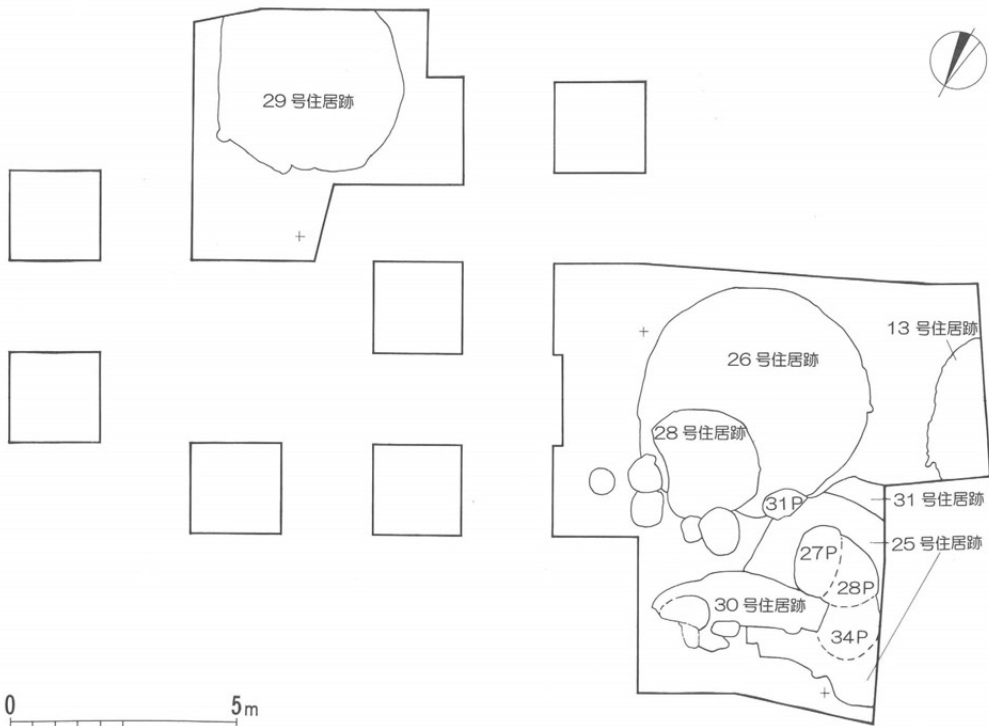
2. 志平遺跡

発掘調査の場所	岡谷市川岸東二丁目 9921-1 外
発掘調査の期間	平成 13 年 4 月 10 日～5 月 17 日
調査の原因	住宅建設
調査面積	113.4 m ²
発見された遺構	縄文時代中期中葉住居跡 3 棟 縄文時代中期後葉住居跡 4 棟 縄文時代小竪穴 10 基
発見された遺物	ミニチュア土器 1 点 管玉 1 点 縄文時代中期中葉土器 12 点 縄文時代中期後葉土器 9 点 外



第2図 25・26号住居跡

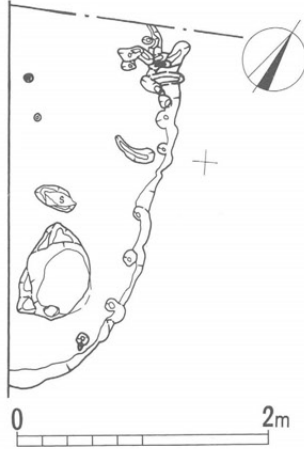
志平遺跡は守屋山系から流れる志平沢がつくった小さな扇状地の上であり、川岸地区の遺跡のなかで天竜川近くまで広がる扇端を持つ遺跡である。今回調査を行った地点は、平成5年度の調査で縄文時代中期の住居跡群が、また平成12年度の調査で縄文時代中期中葉の住居跡の西側半分が発見された場所に隣接しており、住居跡群の広がりを知る上で重要な調査となった。



第3図 志平遺跡遺構配置図 (1:160)



第4図 13号住居跡



第5図 13号住居跡 (1:60)



第6図 13号住居跡ミニチュア土器(右:出土状態)



第7図 13号住居跡出土石鏃

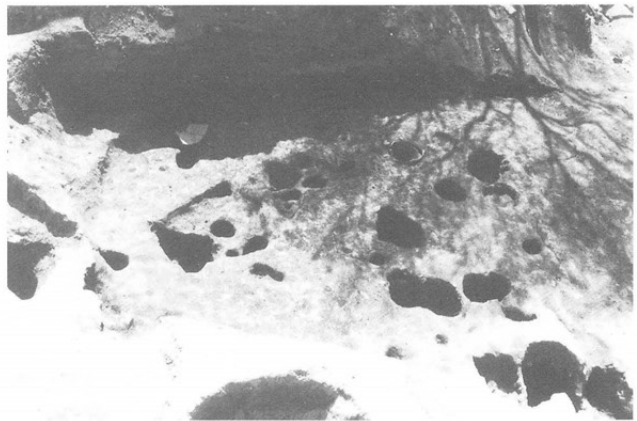
13号住居跡

平成5年度に調査した縄文時代中期後葉の住居跡である。今回の調査では当時調査区外になっていた東側部分の調査を行った。覆土は大きく二層に分かれ、いわゆる三角堆土にはほとんど遺物や礫が含まれず、逆三角堆土は径5~20cmの礫を多く含む黒色土で、土器破片が多く出土する。ミニチュア土器、小型土器底部なども出土し、ここに廃棄された状態と考えられる。床は地山を掘り込み、堅く部分的にタタキ面がある。壁際に垂木痕跡と思われる小穴があるが、北側調査区近くの壁際は木の根で攪乱されて明瞭ではない。

25号住居跡

平成12年度に西側半分を調査した縄文時代中期中葉の住居跡である。今回の調査では未調査の東半分を調査した。覆土は大きく二層に分かれ、上層が黒色土で、土器片や炭化物が混在する。下層は暗褐色土で遺物はほとんど出土しない。遺物を取り上げながら黒色土を掘り下げると、覆土下層の暗褐色土が極端に落ち窪む箇所があり、重複する楕円形の小堅穴とも考えられる。

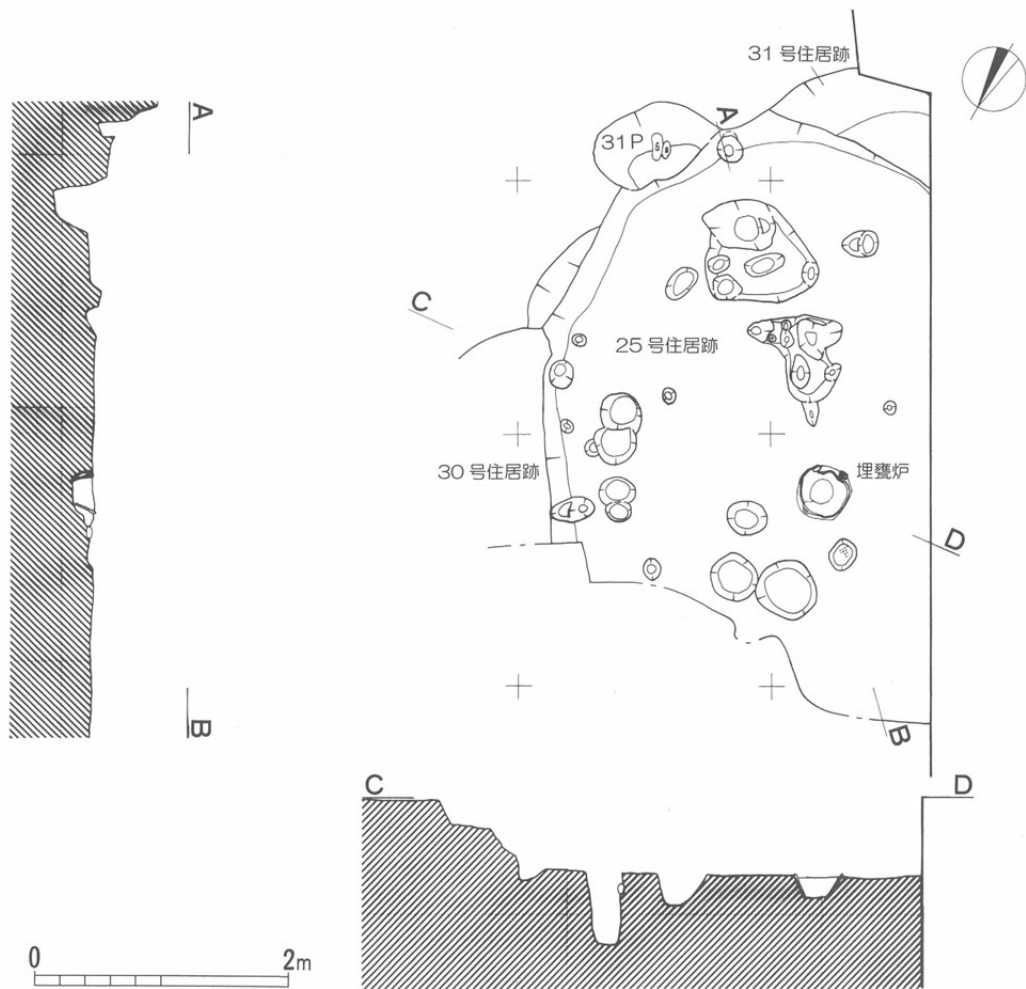
また住居跡南壁にかかり小堅穴一基(31P)を発見した。25号住居跡



第8図 25号住居跡



第9図 25号住居跡出土石鏃



第10图 25号住居跡 (1:60)



第11图 25号住居跡出土土器



第12图 25号住居跡出土土器



第13图 25号住居跡出土土器

よりも新しく、26号住居跡より古い。住居は地山を掘り込んで作られ、床面は貼り床されておらず、堅く叩きしめられている。炉は住居中央に埋甕炉がある。炉体土器は胴部から底部の下半分が欠損している。火床面はあまり焼けておらず、ほとんど変色していない。埋甕炉北側の浅い小穴底部がわずかに赤く焼けていた。住居に伴う小穴は多数発見された。重複する31号住居跡に伴うものも含まれることが推測されるが明確に分けることはできなかった。

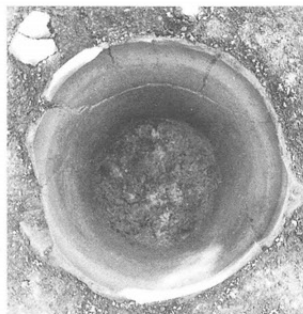
また平成12年度調査時の25号住居跡P1は、再検討し31号住居跡P1とした。

26号住居跡

遺構検出時には、外側に暗褐色土、内側に礫を多く含む黒褐色土が、同心円状に見られる落ち込みがあった。当初は28号住居跡の石囲炉が内側の黒褐色土の住居跡に壊されていると考えられ、住居の重複をより複雑に想定したが、その後28号住居跡の石囲炉は黒褐色土に切られていないことがわかり、覆土断面の観察から外側と内側の土層の違いはいわゆる本址の三角堆土と逆三角堆土の土層の違いであることが判った。住居の掘り込みは南側では検出面より50cm程低く周溝がめぐるが、北側は28号住居跡に壊されていてはっきりしない。覆土下層の暗褐色土はほとんど礫を含まないのに対し、



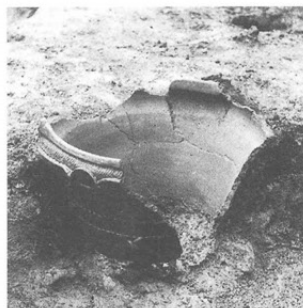
第14図 25号住居跡（中央に埋甕炉）



第16図 25号住居跡埋甕炉



第15図 25号住居跡炉体土器



第17図 26号住居跡

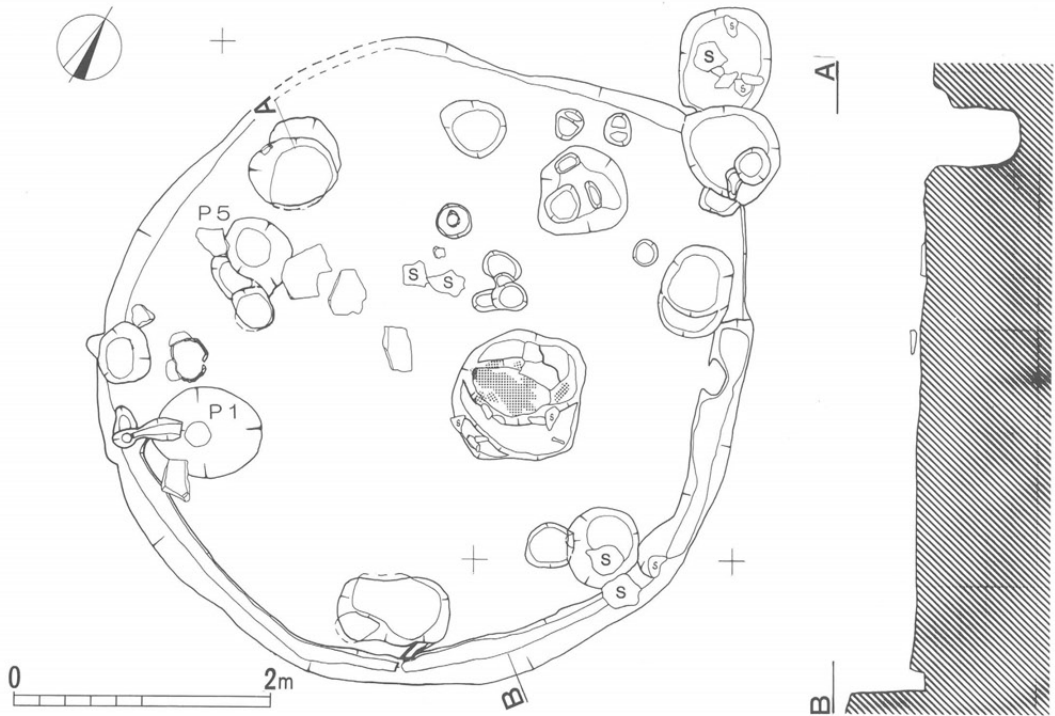


第18図 26号住居跡P5出土土器



第19図 26号住居跡P5土器出土状態

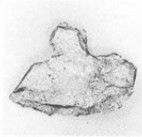
覆土上層の黒褐色土は径5~30cm大の礫を多く含み、遺物も多い土層である。また、炉の近くで暗褐色土が切れている。また床面は全面堅く叩き締められているが炉周辺だけ堅くならず、ややくぼんでいる。埋没の途中に掘り返され炉石が抜かれたものと思われる。住居南西のP1北側から埋甕を発見した。底部は欠損しており、口縁部に接して石が2つ発見された。



第20図 26号住居跡 (1:60)



第21図 26号住居跡埋甕とP1 調査経過



第24図 26号住居跡出土石匙



第25図 26号住居跡出土石器



第22図 26号住居跡埋甕



第23図 26号住居跡埋甕出土状態



第26図 26号住居跡出土土器



第27図 26号住居跡土器出土状態

28号住居跡

26号住居跡の覆土を検出中に、石囲炉と貼り床が発見された住居跡である。石囲炉は南北約60cm、東西約70cmである。壁は一部しか発見されなかった。石囲炉の周囲に貼り床が見られる。時期は縄文時代中期後葉である。



第28図 26号住居跡出土土器

29号住居跡

耕作土を掘り下げると、黄色砂礫層のなかに黒褐色土で礫を含む覆土が円形に検出された。大型破片や礫もあり住居内への廃棄の出土状態かと思われたが、覆土は10~15cm程度と薄く、すぐ床面が出た。石皿は床面に伏せてあった。石囲炉周辺は黄色土と黒褐色土の混じった土で、一部は貼り床されている。炉石は一部抜けている。明瞭に赤く変色した焼土はなく炉内がやや黄色っぽく変色した程度である。覆土から縄文時代中期中葉の土器片が出土しており、石囲炉の形や出土遺物の観察から、本址は

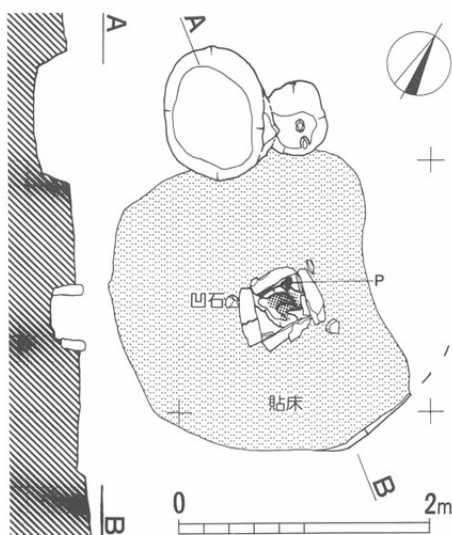


第29図 26号住居跡出土土製円盤

第30図 26号住居跡出土土器



第31図 28号住居跡



第32図 28号住居跡 (1:60)



第33図 28号住居跡礫出土状態と26号住居跡



第34図 28号住居跡石囲炉半截

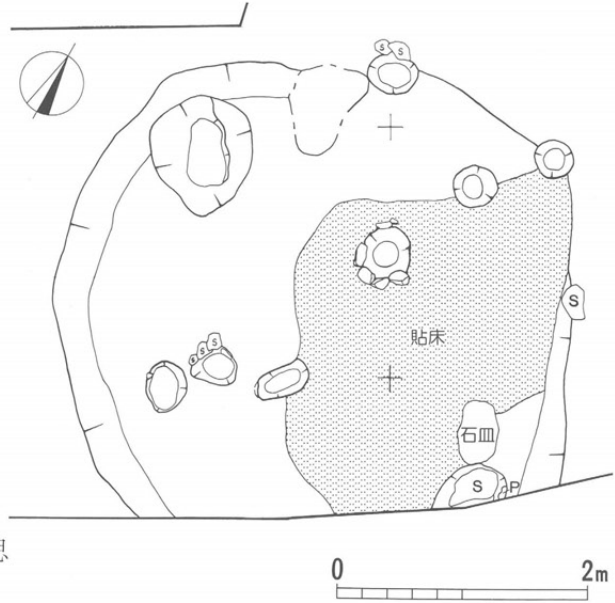


第35図 28号住居跡出土凹石

縄文時代中期中葉の住居跡と思われる。

30号住居跡

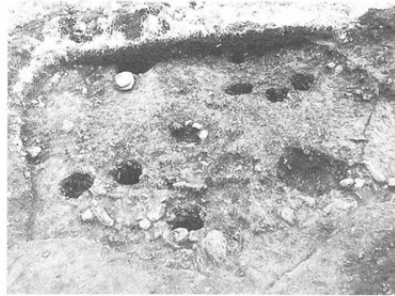
30号住居跡は25号住居跡を掘り込んで構築されている。25号住居跡と重ならない部分の壁は、ロームを掘り込んでおり、貼り床されている。埋甕周辺に堅い面が残る。25号住居跡覆土の貼り床は明瞭な堅い面はない。25号住居跡覆土中の床は沈んだためやや東半分の床より低くなっているが、貼り床は傾斜しながら続いている。出土遺物の観察により縄文時代中期後葉の住居と思われる。



第36図 29号住居跡 (1:60)

31号住居跡

平成12年度調査時は25号住居跡のテラス状部分と思われていたが、今回の調査で二棟の重複であることが判り、外側住居を31号住居跡とした。土層観察により、25号住居跡覆土中に31号住居の床面が発見されなかったことなどにより、25号住居跡より以前の住居跡と思われるが、出土遺物等から、大きな時期差はないものと思われる。



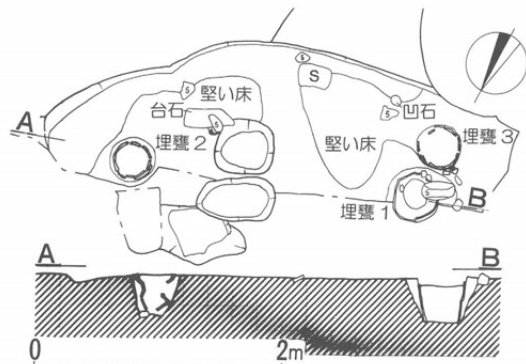
第37図 29号住居跡



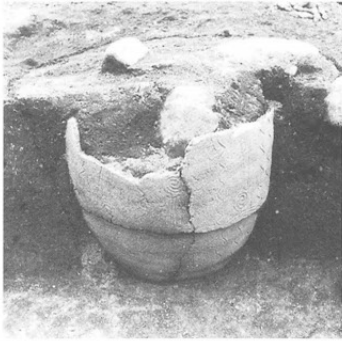
第38図 29号住居跡
出土土器



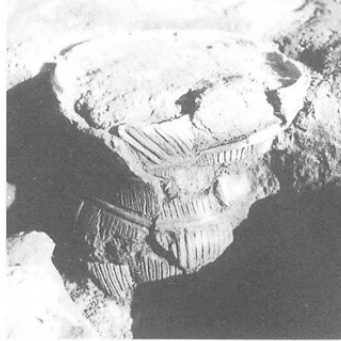
第39図 30号住居跡



第40図 30号住居跡 (1:60)



第 41 図 30 号住居跡埋甕 1



第 42 図 30 号住居跡埋甕 2



第 43 図 30 号住居跡埋甕 3



第 44 図 27 P (手前左は 30 号住居跡)



第 45 図 34 P 管玉出土状態



第 46 図 34 P 出土管玉



第 47 図 27 P 出土土器



第 48 図 28 P 出土土器



第 49 図 28 P 出土土器

報 告 書 抄 録

ふりがな	しびらいせきはつくつちようさほうこくしょ(がいほう)							
書名	志平遺跡発掘調査報告書(概報)							
副書名	平成13年度 榎垣外遺跡ほか岡谷市内遺跡発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	長野県岡谷市教育委員会							
編集機関	長野県岡谷市教育委員会							
所在地	〒394-8510 長野県岡谷市幸町8-1 TEL0266-23-4811							
発行年月日	西暦 2002年3月20日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しびら 志平	ながのけんおかやし 長野県岡谷市 かわざし 川岸	20204	32	36度 2分 41秒	138度 2分 0秒	20010410 ～ 20010517	113.4	住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
志平	集落	縄文	縄文時代住居跡 7 縄文時代小竪穴 10		縄文時代土器 25 管玉1 石鏃 38			

